



# イチゴの育苗分業化を実現する セル成型苗の長期大量生産技術を開発

## 開発の背景・ニーズ

イチゴ経営の大規模化と周年出荷を実現するために、育苗の分業化と苗の長期安定供給が農家から強く望まれています。しかし、イチゴは育苗日数が長いことや、苗の需要が9月に集中することから、これまで種苗会社等からの苗供給は難しい状況にありました。そこで、育苗の分業化と苗の長期安定供給を図るため、長期大量生産が可能なイチゴ苗生産技術の開発に取り組みました。

## 成果の内容

幼苗セル成型苗の長期大量生産技術により、約80万株/10a（慣行の6倍）の苗を、苗1本あたり生産コストを2割下げて周年生産できるようになりました。併せて、生産場面では、定植時期を3か月間拡大する利用技術を開発しました。

### 幼苗セル成型苗の長期大量生産技術

- ・ 2段式採苗システムにより、栽植本数が向上。
- ・ 一次ランナー節切り法、電照・加温技術により、株あたり採苗数が向上。
- ・ 親株・ランナー子株冷蔵貯蔵技術により、苗生産時期が拡大。



幼苗セル成型苗



栽植本数の向上を図る  
2段式採苗システム



農家へ届けるセル成型苗の荷姿

## 愛知県農業への貢献

種苗会社や種苗生産農家がイチゴの苗生産に取り組むことができ、育苗の分業化や苗の長期安定供給が可能となります。また、イチゴ生産農家の栽培面積の拡大と周年出荷の実現につながります。